

# Electone® *STAGEA*®

## ELS-02/ELS-02C/ELS-02X

### バージョン2.1 追加機能説明書

本バージョンから、オーディオ録音/再生機能が追加されました。またエレクトーン・インターネットダイレクトコネクションサービスの終了にともない、無線LANの設定方法が変更されました。無線LANの設定方法については、本書をお手持ちのエレクトーン取扱説明書の「インターネットダイレクト接続機能」の無線LANページの説明と読み替えてご使用ください。

またiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続できるようになりました。  
本書はELS-02/ELS-02C/ELS-02Xの画面を使用して説明しています。

#### ELS-02/ELS-02C/ELS-02Xのバージョン2.1へのバージョンアップにともない、追加/削除された機能

##### ●オーディオ録音/再生機能の追加

自分の演奏をオーディオファイル(.WAV)としてUSBフラッシュメモリーに録音したり、この楽器で再生したりできるようになりました。

##### ●インターネットダイレクト接続機能の削除

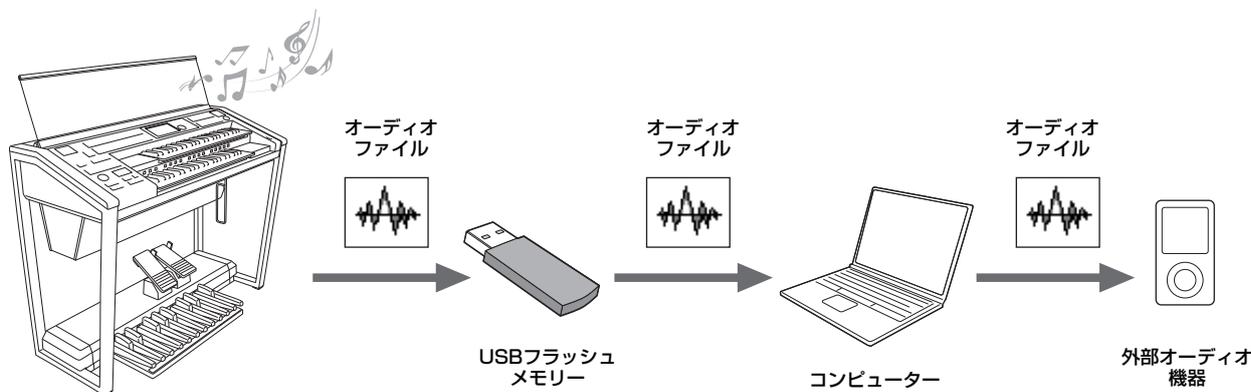
エレクトーン・インターネットダイレクトコネクションサービスの終了にともない、インターネットダイレクト接続機能が使用できなくなりました。

##### ●iPhone/iPadなどのスマートデバイスとの接続機能の追加

iPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続できるようになりました。楽器に対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。

# オーディオ

[AUDIO]ボタンを使うことにより、ご自分の演奏をオーディオファイル(.WAV)としてUSBフラッシュメモリーに録音することができます。録音したオーディオファイルをコンピューターを使って活用することにより、知り合いとお互いの演奏データをやりとりしたり、オリジナルのCDを制作したりするなど、さまざまな用途で楽しめます。USBフラッシュメモリーに入っているオーディオファイルをこの楽器で再生することもできます。



USBフラッシュメモリーは、インターネット上のピアノ・鍵盤楽器お客様サポートページに掲載されている「USB動作確認済みリスト」のものをお使いください。

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/>

動作確認済み以外のものを使うと、データの保存/呼び出しができない場合があります。また、ご使用前に取扱説明書に記載されている「[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意」をお読みください。

## 注記

データを保護し、オーディオファイルを安定してご使用いただくために、以下の点にご配慮ください。

- USBフラッシュメモリーは必要なデータが入っていないことを確認してからフォーマットし、オーディオファイルの録音/再生専用としてご使用いただくことをおすすめします。ソングと共用すると、ファイルの断片化により、空き領域やファイルの検索に時間がかかり、オーディオファイルの録音/再生が停止することがあります。
- USBフラッシュメモリーはしっかり挿入し、オーディオファイルの録音/再生中に、演奏などの振動によりUSBフラッシュメモリーの接触不良が起きないようにご注意ください。USBフラッシュメモリー内のデータが壊れるおそれがあります。

## 演奏を録音する

### オーディオ録音

演奏をオーディオファイルとしてUSBフラッシュメモリーに録音します。演奏した音そのものを記録します。一般的なCD音質(44.1kHz/16bit)のステレオWAV形式で保存され、コンピューターを使って携帯音楽プレーヤーなどに転送して再生できます。また[MIC./LINE IN]端子からのモノラル入力音を録音できますので、ボーカルやギターなどの演奏音も録音できます。

### NOTE

- AUX IN端子からの入力音をオーディオ録音することはできません。
- [AUDIO]ボタンを使った録音では、レジストレーションを保存することはできません。レジストレーションを保存したい場合は、取扱説明書に記載されている「ミュージックデータレコーダー (MDR)」の「演奏を録音する」の方法で録音してください。

ご自分の演奏をオーディオファイルとしてUSBフラッシュメモリーに録音してみましょう。1回の録音につき60分まで録音できます(USBフラッシュメモリーの空き容量によって異なります)。

### 録音できるファイル形式

拡張子.wav、サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo

### NOTE

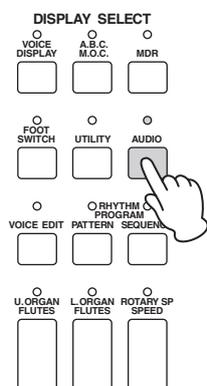
拡張子とは、コンピューターがファイル形式を識別するための識別子です。拡張子は、エレクトーンの画面上には表示されません。

- 1 動作確認済みのUSBフラッシュメモリーを、[USB TO DEVICE]端子に接続します。

 関連ページ

• 動作確認済みのUSBフラッシュメモリー (2ページ)

- 2 パネル上の[AUDIO]ボタンを押して、オーディオページを表示させます。

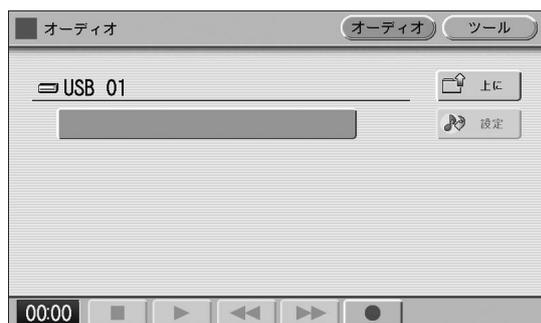


#### NOTE

USBフラッシュメモリーの中にソングが入っていても、オーディオページにソングは表示されません。

- 3 演奏を録音するための、データが入っていないオーディオファイルを選びます。

データが入っていないオーディオファイルは、手順2の画面で  (中に) ボタンを押してUSBフラッシュメモリーの中に入ると見つかります。オーディオファイルの選び方は、ソングの選び方と同じです。取扱説明書に記載されている「ソングを選ぶ」をご参照ください。



- 4 画面の[●] (録音) ボタンを押して録音待機状態にします。



- 5 画面の[▶] (再生) ボタンを押して録音を開始します。演奏を始めましょう。

録音中は、画面に録音経過時間が表示されます。録音経過時間が表示されたあと、MDR画面からレジストレーションやソングを再生することもできます。



録音経過時間

#### 注記

録音中はUSBフラッシュメモリーの抜き差しをしたり、楽器の電源を切ったりしないでください。データが壊れるおそれがあります。

## 6 演奏が終わったら、画面の[■](停止)ボタンを押して、録音を終了します。

録音したオーディオファイルに自動的に名前が付けられ、オーディオページで選択されます。

## 7 画面の[▶](再生)ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみましょう。



**関連ページ**  
 ・ファイルの削除、名前の変更(7ページ)

### ソングをオーディオ録音する

MDR機能を使ってソングとして録音したご自分の演奏を、そのソングを再生しながらオーディオ録音することができます。

- 1 ソングの入ったUSBフラッシュメモリと、オーディオ録音用のUSBフラッシュメモリをそれぞれ[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 オーディオ録音を開始します(上記の手順2～5)。
- 3 MDR画面でソングを選び、再生します。  
ソングの最後まで再生します。
- 4 オーディオの録音を終了します(上記の手順6～7)。

## オーディオファイルを再生する

USBフラッシュメモリに入っているオーディオファイルをこの楽器で再生してみましょう。

### NOTE

DRM(デジタル著作権管理)付きファイルは非対応です。

### 再生できるファイル形式

拡張子.wav、サンプリング周波数44.1kHz、量子化ビット数16bit、stereo

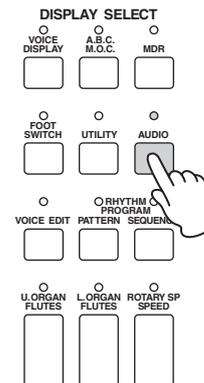
- 1 再生したいオーディオファイルの入っている動作確認済みのUSBフラッシュメモリを、[USB TO DEVICE]端子に接続します。



**関連ページ**

- ・動作確認済みのUSBフラッシュメモリ (2ページ)

- 2 パネル上の[AUDIO]ボタンを押して、オーディオページを表示させます。



### NOTE

USBフラッシュメモリの中にソングが入っていても、オーディオページにソングは表示されません。

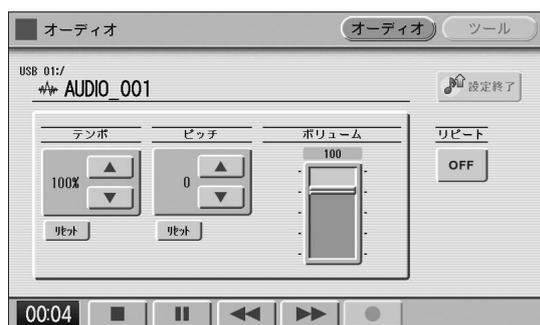
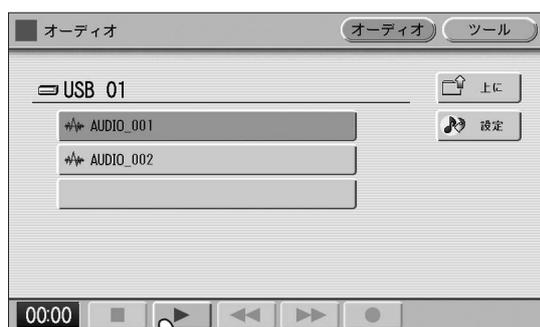
### 3 再生したいオーディオファイルを選びます。

データの入っているオーディオファイルには、 (波形アイコン)が付いています。オーディオファイルの選び方は、ソングの選び方と同じです。取扱説明書に記載されている「ソングを選ぶ」を参考に、目的のオーディオファイルを選んでください。



### 4 オーディオファイルが選ばれた状態で画面の[▶](再生)ボタンを押すと、オーディオ再生画面の再生ページが表示され、再生が始まります。

再生中は画面の左下に再生時間が表示されます。



### 5 再生を止めるには、画面の[■](停止)ボタンを押します。

オーディオページに戻ります。

#### 注記

再生中はUSBフラッシュメモリーの抜き差しをしたり、楽器の電源を切ったりしないでください。データが壊れるおそれがあります。

## 早戻し/早送り/一時停止

オーディオファイルの再生中に、早戻しや早送り、一時停止などができます。



#### 早戻し/早送りをするには:

早戻しは画面の[◀◀](早戻し)ボタン、早送りは画面の[▶▶](早送り)ボタンを押します。オーディオファイルの再生は中断され、画面の時間表示も、早戻し/早送りに従って変化します。ボタンをはなしても、再生は中断されたままです。早戻し/早送りをしたところから再生をスタートするには、画面の[▶](再生)ボタンを押してください。

#### 一時停止するには:

オーディオファイルの再生中に、画面の[⏸](一時停止)ボタンを押すと、再生が一時停止します。画面の[▶](再生)ボタンをもう一度押すと、一時停止したところから再生がスタートします。

## 音量、テンポ、ピッチの調節

オーディオファイルの再生音量、テンポ、ピッチ(再生音の高さ)を調節できます。

### 1 オーディオファイルの入った、動作確認済みのUSBフラッシュメモリーを挿入します。

#### 🔗 関連ページ

- 動作確認済みのUSBフラッシュメモリー (2ページ)

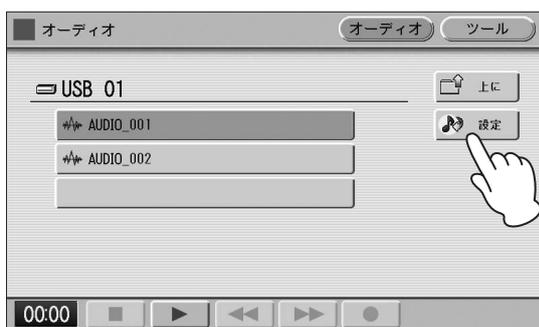
### 2 [AUDIO] ボタンを押します。

### 3 目的のオーディオファイルを選択します。

オーディオファイルの選び方は、ソングの選び方と同じです。取扱説明書に記載されている「ソングを選ぶ」を参考に、目的のオーディオファイルを選んでください。



### 4 画面の (設定) ボタンを押して、設定ページに切り替えます。



このページで各設定を行ないます。

#### • 音量を変更するには：

画面に表示されたスライダーを直接触って音量の値を変更するか、データコントロールダイヤルを回して、ボリュームを変更します。

**設定範囲:** 0~127

#### • テンポを変更するには：

画面のテンポ ボタンを続けて押すか、データコントロールダイヤルを回して、再生テンポを変更します。もとのテンポが100%で表示され、それよりも大きい数値にすると速く、小さい数値にすると遅くなります。画面の[リセット]ボタンを押すか、別のオーディオファイルを選ぶと、値は初期設定(100%)に戻ります。

**設定範囲:** 75%~125%

#### • ピッチを変更するには：

画面のピッチ ボタンを続けて押すか、データコントロールダイヤルを回して、ピッチを変更します。半音単位(-12~+12)で調整できます。画面の[リセット]ボタンを押すか、別のオーディオファイルを選ぶと、値は初期設定(0)に戻ります。

**設定範囲:** -12~+12

#### NOTE

- テンポやピッチを変更すると、曲によっては音質が変わることがあります。
- 音量やテンポ、ピッチを変更した場合、電源を入れなおすと変更した値は初期値に戻ります。

### 5 再生して変更結果を確認しましょう。

## リピート再生する

### 1 設定ページのリピートボタンを押して、リピート再生の方法を選択します。

ボタンを押すたびにリピート再生の方法が変わります。

#### (シングル)

現在選ばれている曲を繰り返し再生します。

#### (すべて)

現在選ばれているフォルダー内のすべての曲を、順番に繰り返し再生します。

#### (ランダム)

現在選ばれているフォルダー内のすべての曲を、任意の順番で繰り返し再生します。

#### (停止)

リピート再生しません。

### 2 画面の (設定終了) ボタンを押して、画面を閉じます。

### 3 (再生) ボタンを押すと、上で選んだ方法でリピート再生がスタートします。

## その他の機能(ツール)を使う

### フォルダーの作成、ファイルの削除、名前の変更

オーディオファイルを削除したり、名前を変更したりできます。

#### 1 オーディオファイルの入った、動作確認済みのUSBフラッシュメモリーを挿入します。



動作確認済みのUSBフラッシュメモリー (2ページ)

#### 2 [AUDIO] ボタンを押します。

#### 3 目的のオーディオファイルを選択します。

オーディオファイルの選び方は、ソングの選び方と同じです。取扱説明書に記載されている「ソングを選ぶ」を参考に、目的のオーディオファイルを選んでください。

#### 4 画面の[ツール] ボタンを押して、ツールページを表示させます。

ツールページで削除、名前の変更を行ないます。



#### • フォルダーを作成するには：

画面の[フォルダー作成]ボタンを押し、取扱説明書の「MDR画面の操作」のフォルダー作成の説明と同じ操作を行ないます。

#### • ファイルを削除するには：

画面の[削除]ボタンを押すとオーディオファイルを削除するかどうか確認を求める画面が表示されます。画面の[キャンセル]ボタンを押すとオーディオファイルは削除されずに元の画面に戻り、画面の[削除]ボタンを押すとオーディオファイルは削除され、元の画面に戻ります。

#### • 名前を変更するには：

画面の[名前変更]ボタンを押すと文字入力画面が表示され、名前を入力できます。入力方法は取扱説明書に記載されている「ソングに名前を付ける」と同じです。画面の[OK]ボタンを押すと名前が変更され、オーディオページに戻ります。

ツールページからオーディオページに戻るには、画面の[オーディオ]ボタンを押します。

## ファイルのコピー

### オーディオファイルをコピーするには：

ツール画面の[コピー]ボタンを押し、取扱説明書の「ソングコピーの一般的な操作」の手順1～5と同じ操作を行ないます。

#### NOTE

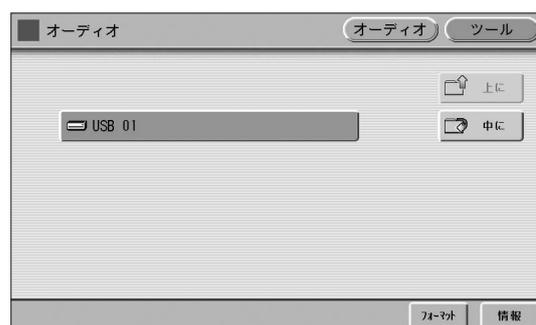
- オーディオファイルは、コピー元と同じフォルダーにコピーすることはできません。
- オーディオファイルをコピーする場合は、フォルダーごとのコピーはできません。1つのオーディオファイルずつコピーしてください。
- [USB TO DEVICE]端子が1つしか空いていない場合は、異なるUSBフラッシュメモリー間でのオーディオファイルのコピーはできません。

### オーディオファイルの容量/USBフラッシュメモリーの残量を確認するには：

画面の[情報]ボタンを押すと、オーディオファイルが選択されているときはオーディオファイルの容量と再生時間を表示します。USBフラッシュメモリーが選択されているときは空き容量(残量)を表示します。

### USBフラッシュメモリーを初期化(フォーマット)するには：

画面の[フォーマット]ボタンを押し、取扱説明書の「USBフラッシュメモリーを初期化(フォーマット)する」の手順3～5と同じ操作を行ないます。



# 外部機器との接続

## iPhone/iPadと接続する

この楽器はiPhoneやiPadなどのスマートデバイスと接続できます。楽器に対応のアプリケーションを使うことにより、楽器をもっと便利に楽しむことができます。

接続の方法については、ウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」をご覧ください。

<http://download.yamaha.com/jp/>

対応のスマートデバイスやアプリケーションについて詳しくは、ウェブサイト上の下記ページでご確認ください。

<http://jp.yamaha.com/kbdapps/>

## USB無線LANアダプター (別売品)を使った接続

USB無線LANアダプターを使うと、この楽器をスマートデバイスに無線接続できます。USB無線LANアダプターは、インターネット上のピアノ・鍵盤楽器お客様サポートページに掲載されている「USB動作確認済みリスト」のものをお使いください。

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/>

基本的な接続方法はウェブサイト上の「iPhone/iPad接続マニュアル」で説明されていますが、操作の途中で必要になる楽器側の設定については、本書の「無線LAN接続する」もあわせてお読みください。

### NOTE

USB無線LANアダプターを使用している場合は、[USB TO HOST]端子とMIDI端子は使用できません。

## 無線LAN接続する

iPhone/iPad接続マニュアルの説明手順に沿って操作を始めると、途中で「WPSによる接続」、「ネットワーク一覧から選んで接続する」、「手動接続」、「アドホックモードによる接続」のいずれかの設定が楽器側で必要になります。本書の9ページ～12ページをご覧ください、必要な操作を行なってください。

使用できるアクセスポイントがない場合は、「アドホックモードによる接続」(12ページ参照)を行なってください。

### 📎 関連ページ

- 無線LANの詳細設定(13ページ)
- 無線LAN設定を初期化する(15ページ)

### 注記

- iPhone/iPadのアプリケーションと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためiPhone/iPadの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- iPhone/iPadを不安定な場所に置かないでください。iPhone/iPadが落下して破損するおそれがあります。

### NOTE

[USB TO DEVICE]端子を使う前に、取扱説明書に記載されている「[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意」をお読みください。

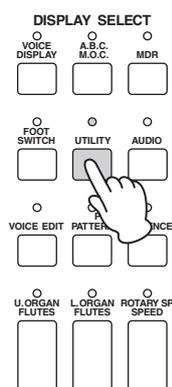
## WPSによる接続

アクセスポイントがWPS機能に対応している場合は、設定情報の画面入力などを行なうことなく簡単な操作で楽器をネットワークに接続できます。

### NOTE

アクセスポイントがWPS機能に対応しているかは、アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

- 1 USB無線LANアダプターを接続します。
- 2 [UTILITY]ボタンを押したあと、画面の[無線LAN]ボタンを押して、無線LANページを表示させます。



無線LANのモード



- 3 無線LANのモードが「インフラストラクチャーモード」になっているか確認します。

アドホックモードになっている場合は、[モード変更]ボタンを押して、インフラストラクチャーモードに変更してください(12ページ)。

- 4 画面の[WPS]ボタンを押します。

WPS接続を開始するかどうか確認を求めるメッセージが表示されます。画面の[キャンセル]ボタンを押すとキャンセルされます。

- 5 画面の[OK]ボタンを押すとWPSが開始されますので、2分以内にお使いのアクセスポイントのWPSボタンを押してください。

楽器とネットワークの接続に成功すると表示されます



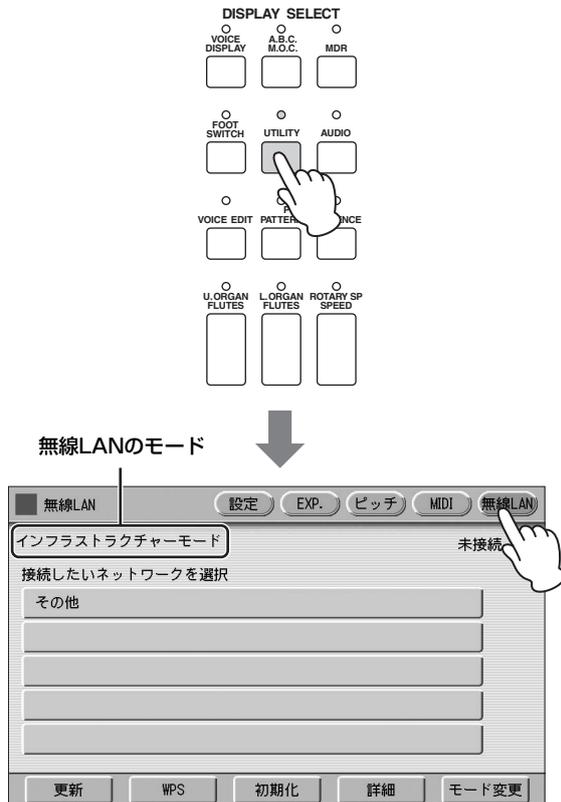
- 6 楽器とネットワークの接続が完了したら、「iPhone/iPad接続マニュアル」を参照して、iPhone/iPadとネットワークを接続してください。

## ネットワーク一覧から選んで接続する

画面のネットワーク一覧から接続できるネットワークを選びます。

1 USB無線LANアダプターを接続します。

2 [UTILITY]ボタンを押したあと、画面の[無線LAN]ボタンを押して、無線LANページを表示させます。



3 無線LANのモードが「インフラストラクチャーモード」になっているか確認します。

アドホックモードになっている場合は、[モード変更]ボタンを押して、インフラストラクチャーモードに変更してください(12ページ)。

4 画面の[更新]ボタンを押して、楽器近くにあるネットワーク一覧を画面に表示させます。

セキュリティが設定されているネットワークには  (鍵アイコン)が表示されます。

5 画面の接続するネットワーク名が表示されているボタンを押して、お使いになるネットワークを選択します。

- 鍵アイコンが付いていないネットワークの場合：接続が開始されます。
- 鍵アイコンが付いているネットワークの場合：パスワード入力画面が表示されますので、アクセスポイント側で設定しているパスワードと同じに設定してください。文字の入力方法は、取扱説明書に記載されている「ソングに名前をつける」と同じです。入力が終わったら画面の[OK]ボタンを押して確定します。すると接続が自動的に開始されます。

楽器とネットワークの接続に成功すると表示されます



6 楽器とネットワークの接続が完了したら、「iPhone/iPad接続マニュアル」を参照して、iPhone/iPadとネットワークを接続してください。

## 手動接続

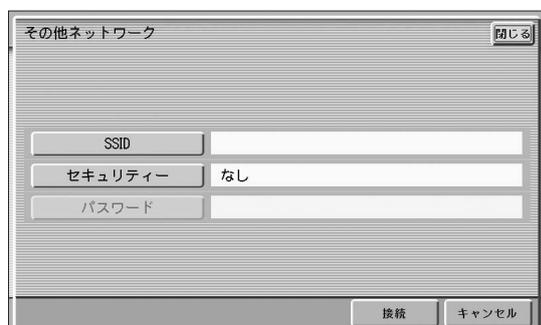
アクセスポイントがSSIDを非公開にしているためネットワーク一覧に表示されない場合は、SSID、セキュリティ方式、パスワードを入力して接続します。

### NOTE

アクセスポイントの設定内容の確認や変更については、使用するアクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。

- 1 無線LANのモードが「インフラストラクチャーモード」になっているか確認します。  
10ページの「ネットワーク一覧から選んで接続する」の手順1～3と同じ操作を行なってください。

- 2 画面のネットワーク名が[その他]のボタンを押します。  
「その他ネットワーク」画面が表示されます。



- 3 SSID、セキュリティ、パスワードを順に設定します。

アクセスポイント側で設定している内容と同じに設定してください。

- SSID

画面の[SSID]ボタンを押すと、SSIDの入力画面が表示されますので、アクセスポイントとしてのSSIDを入力します。文字の入力方法は、取扱説明書に記載されている「ソングに名前を付ける」と同じです。半角の英数字と記号で最大32文字です。入力が終わったら、画面の[OK]ボタンを押します。

- セキュリティ

画面の[セキュリティ]ボタンを押すと表示される、[なし]ボタン、[WEP]ボタン、[WPA2-PSK(AES)]ボタンのいずれかを押してセキュリティを選択します。

- パスワード

画面の[パスワード]ボタンを押すとパスワード入力画面が表示されますので、SSIDと同様の方法で入力します。入力が終わったら、画面の[OK]ボタンを押します。

### NOTE

セキュリティで「なし」を選ぶと、パスワードの設定はできません。

- 4 画面の[接続]ボタンを押すと、接続を開始します。

楽器とネットワークの接続に成功すると表示されます



- 5 楽器とネットワークの接続が完了したら、「iPhone/iPad接続マニュアル」を参照して、iPhone/iPadとネットワークを接続してください。

## アドホックモードによる接続

- 1 無線LANのモードをアドホックモードに切り替えます。

「無線LANのモードの切り替え」をご覧ください。

- 2 SSIDなどを変更する必要がなければ、これで楽器側の設定は完了しました。「iPhone/iPad接続マニュアル」を参照して、iPhone/iPadと楽器を接続してください。

SSIDやセキュリティーを変更したい場合は、詳細設定画面で行ないます。



関連ページ

・無線LANの詳細設定(13ページ)

## 無線LANのモードの切り替え

- 1 10ページの「ネットワーク一覧から選んで接続する」の手順1～2と同じ操作を行なってください。

- 2 無線LANのモードを変更します。

アドホックモードまたはインフラストラクチャーモードに変更できます。

画面の[モード変更]ボタンを押すと、モードを変更するかどうか確認を求めるメッセージが表示されますので、変更する場合は画面の[OK]ボタンを押します。

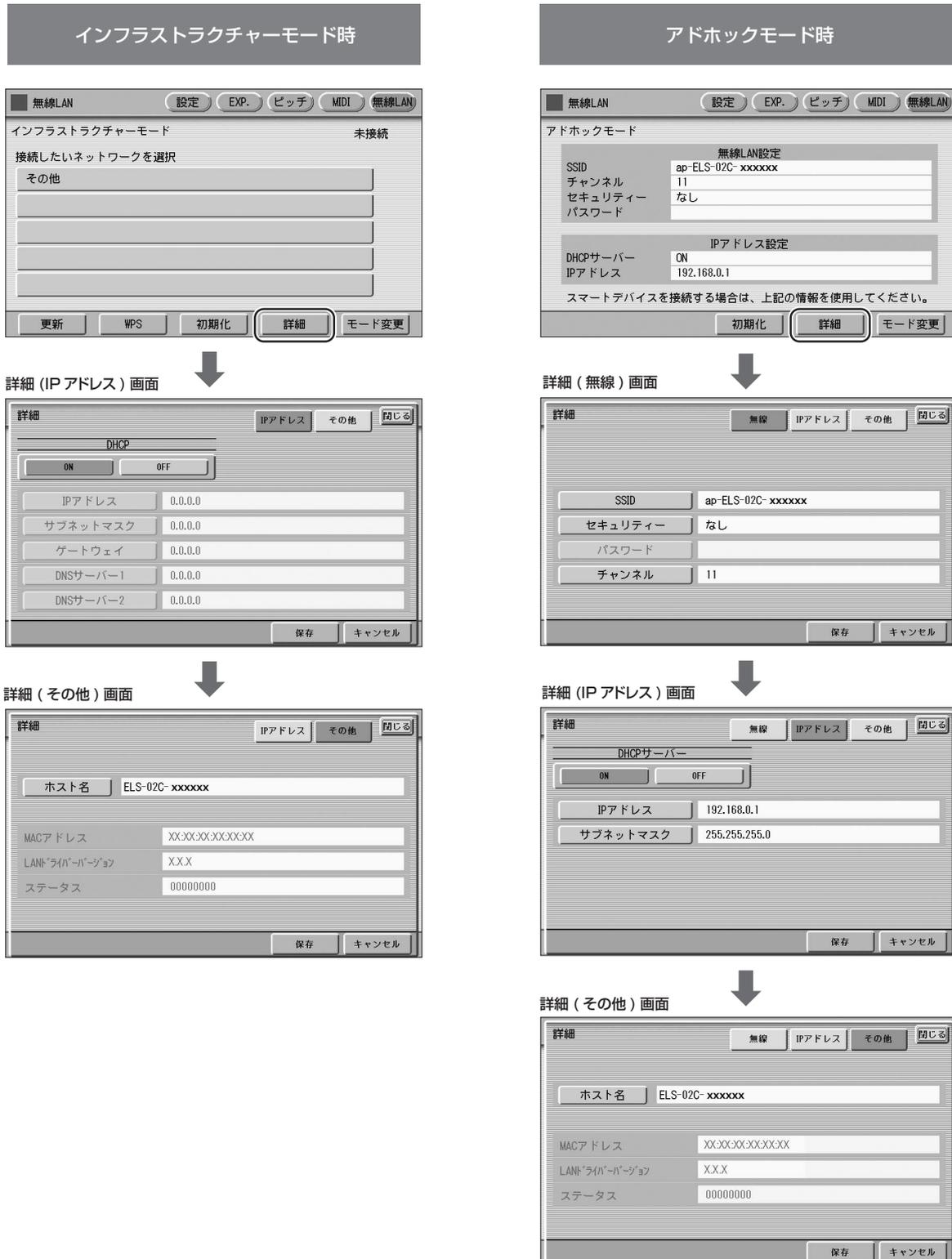
## 無線LANの詳細設定

インフラストラクチャーモードと、アドホックモードそれぞれに詳細設定があります。  
すでに楽器とiPhone/iPadが接続済みの場合、詳細設定は特に必要ありません。

### 📎 関連ページ

- 無線LANのモードの切り替え(12ページ)

1 無線LANのモードを選んだあと、無線LAN画面ページの[詳細]ボタンを押して、詳細画面を表示させます。



## 2 必要に応じて設定します。

無線LANのモード	画面	項目名	初期値	設定/入力方法	
インフラストラクチャーモード時	詳細(IPアドレス)画面	DHCP	ON	DHCPを使用するか「ON」、使用しないか「OFF」を設定します。使用しているアクセスポイントがDHCPに対応している場合は、「ON」を選びます。画面の[ON]/[OFF]ボタンでON/OFFを切り替えます。	
		IPアドレス	0.0.0.0	DHCPを「OFF」に設定したときは、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバー1、DNSサーバー2の設定が必要です。設定内容については、使用しているアクセスポイントの取扱説明書などをご確認ください。 入力方法は、取扱説明書に記載されている「ソングに名前をつける」のソング名の付け方と同じです。設定範囲は0.0.0.0～255.255.255.255です。	
		サブネットマスク	0.0.0.0		
		ゲートウェイ	0.0.0.0		
		DNSサーバー1	0.0.0.0		
		DNSサーバー2	0.0.0.0		
アドホックモード時	詳細(無線)画面	SSID	ap-[モデル名 例 ELS-02C]-[MACアドレス下6桁](MACアドレスが取得できない場合はap-[モデル名])	MACアドレスの確認方法はこの表の下にあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SSID、セキュリティ、パスワードは「手動接続」(11ページ)時と同じ方法で設定します。MACアドレス下6桁のアルファベットは小文字です。</li> <li>チャンネルは画面の[チャンネル]ボタンを押すと表示される1～13の数字の書いてあるボタンを押して選択します。</li> <li>DHCP、IPアドレスは、インフラストラクチャーモード時と同じ方法で設定します。</li> <li>サブネットマスクは画面の[サブネットマスク]ボタンを押すと表示される数値入力画面で入力します。</li> </ul>	
		チャンネル	11		
		セキュリティ	— (なし)		
		パスワード	— (なし)		
	詳細(IPアドレス)画面	DHCP	ON		
		IPアドレス	192.168.0.1		
		サブネットマスク	255.255.255.0		
インフラストラクチャーモード時/ アドホックモード時	詳細(その他)画面	ホスト名	[モデル名 例 ELS-02C]-[MACアドレス下6桁](MACアドレスが取得できない場合は[モデル名])	画面の[ホスト名]ボタンを押してホスト名を設定します。最大57文字。半角英数字に加え「-」と「_」も設定可能です。入力方法は、取扱説明書に記載されている「ソングに名前をつける」のソング名の付け方と同じです。入力が終わったら、画面の[OK]ボタンを押して確定します。MACアドレス下6桁のアルファベットは小文字です。	
		MACアドレス	— (なし)		USB無線LANアダプターのMACアドレスを表示します。設定はできません。
		LANドライバーバージョン	— (なし)		LANドライバーのバージョンを表示します。設定はできません。
		ステータス	00000000		ネットワーク機能のエラーコードを表示します。00000000はエラーなしです。

## 3 設定の変更を保存します。

詳細設定が終わったら、画面の[保存]ボタンを押します。キャンセルしたい場合は画面の[キャンセル]ボタンを押します。保存が終了すると、自動的に元の画面に戻ります。

## 無線LAN設定を初期化する

無線LAN設定は、取扱説明書に記載されている「エレクトーンの初期化」では初期化されません。ここで説明する方法で初期化をする必要があります。初期化を実行すると、無線LAN設定画面で行なったすべての設定が消去されて工場出荷時の状態に戻ります。

- 1 [UTILITY]ボタンを押したあと、画面の[無線LAN]ボタンを押して、無線LANページを表示させます。



- 2 初期化します。

画面の[初期化]ボタンを押すと、無線LAN設定を初期化するかどうか確認を求めるメッセージが表示されますので、初期化する場合は画面の[OK]ボタンを押します。

## インターネット用語辞典

アクセスポイント	無線LANで電波のやりとりを行なうときの基地局となる機器。無線LANを有線LANにつなぐ役割も持つ。
アドホックモード	アクセスポイントなどの中継機器を経由せずに直接、端末機器同士で通信を行なうことができる通信方式。
インフラストラクチャーモード	各端末が無線LANのアクセスポイントなどの中継機器を経由することによってデータ通信を行なう通信方式。
ゲートウェイ	ネットワーク上で、通信規格の異なるデータを相互に変換してやりとりするためのシステム。
サイト	正式には「ウェブサイト」という。ひとまとまりに公開されているウェブページ群。たとえば、 <a href="http://jp.yamaha.com/">http://jp.yamaha.com/</a> で始まるウェブページを「ヤマハのサイト」と呼ぶ。
サーバー	ある特定のサービスを提供するシステムやコンピューターのこと。
サブネットマスク	大規模なネットワークを、いくつかの小さなネットワークに分割するための設定。
無線LAN	ケーブルを使わず、無線通信でデータの送受信をするLANのこと。
ルーター	異なるネットワーク同士を相互接続するための機器。たとえば家庭などで複数のコンピューターを同時にインターネットに接続して、それぞれに異なるはたらきをさせたい場合に必要となる。一般的にはモデムとコンピューターの間に接続するが、モデム自体にルーター機能が内蔵されているものもある。
DHCP	インターネットに接続するたびに、コンピューターにIPアドレスなどの必要な情報を自動的に割り当てるための規格。
DNS	ネットワークに接続されている各コンピューターの名前とIPアドレスを対応させるシステム。
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューター 1台1台に割り振られた、ネットワーク上の所在を示す識別番号。
LAN	同じ建物の中にあるコンピューター同士を専用のケーブルで接続し、データをやり取りするネットワーク。Local Area Networkの略。
SSID	無線LANで特定のネットワークを指定するための識別名のこと。SSIDが一致した端末間でのみ通信できる。

